

問1 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が蘇我氏と協力して政治を行う中で、政治に携わる人々の心得や道徳を示すために制定したきまりを何といいますか。（2018年 茨城県公立入試 類似）

1. 冠位十二階 2. 十七条の憲法 3. 五箇条の御誓文 4. 大宝律令

問2 7世紀の東アジアの情勢について、朝鮮半島の北部に位置する国家が唐から大規模な軍事攻撃を受けたことで、日本（倭）を含む周辺諸国の国際的な緊張が高まった状況を説明した文章があります。この文章の中で、唐の攻撃の対象となり、東アジアの緊張の一因となった国家として正しいものを選びなさい。（2020年 徳島公立入試 類似）

1. 高句麗 2. 新羅 3. 百済 4. 加耶（任那）

問3 7世紀後半、中大兄皇子らが中心となって行われた政治改革である「大化の改新」ののち、唐・新羅の連合軍に敗れた「白村江の戦い」を経て、強力な中央集権国家を目指して8世紀初頭に制定された法令を選びなさい。（2024年 山梨公立入試 類似）

1. 大宝律令 2. 御成敗式目 3. 武家諸法度 4. 禁中並公家諸法度

問4 8世紀初頭に大宝律令が制定された目的や、その後の社会の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 愛知公立入試 類似）

1. 唐の優れた制度を取り入れることで、天皇を頂点とする官僚組織を整え、国家としての統治能力を高めるため。
2. 武士の台頭に対抗するため、貴族が土地を私有することを法的に認め、都の経済を安定させるため。
3. 地方の豪族に世襲の特権を強く認めることで、中央政府への不満を抑え、内乱を防ぐため。
4. 仏教を国教と定め、寺院が持つ強力な経済力や軍事力を国家の管理下に置くため。

問5 飛鳥時代に推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）が、役人の政治に対する心がまえを説くために制定した法は何ですか。「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗となせ」という、人々の和を尊重し、争わないことを第一に掲げたものを選びなさい。（2022年 沖縄公立入試 類似）

1. 十七条の憲法 2. 五箇条の御誓文 3. 御成敗式目 4. 武家諸法度

問6 古代の日本において、唐の制度を参考に「律令」が制定された主な目的として、最も適切な説明はどれですか。当時の地方行政の状況を伝える多胡碑などの記録を踏まえて考えなさい。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 天皇を頂点とし、法に基づいた行政区画の整備を通じて中央集権的な統治を行うため
2. 仏教の教えを広めることで、人々の不満を抑えて社会の安定を図るため
3. 武士の勢力を抑えるために、有力な貴族に地方の土地を自由に管理させるため
4. 外国との貿易を促進するために、港を中心とした新しい都市を建設するため

問7 大化の改新において、土地や民をそれまで支配していた有力な豪族から取り上げ、国家（天皇）が直接支配するものとした制度を何と呼びますか。（2017年 和歌山公立入試 類似）

1. 公地公民 2. 版籍奉還 3. 班田収授の法 4. 守護・地頭

問8 飛鳥文化を象徴する法隆寺に関する記述として、歴史的背景を含めて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 三重公立入試 類似）

1. 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。
2. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の総本山として、国家の保護を受けて発展した。
3. 奥州藤原氏によって東北地方に建てられ、浄土信仰に基づく金色の建築様式が特徴である。
4. 最澄が比叡山に開いた天台宗の拠点であり、平安時代以降の仏教の発展に大きく寄与した。

問9 聖徳太子が十七条の憲法を制定したり、法隆寺を建立して仏教を保護したりした政治的な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 滋賀公立入試 類似）

1. 豪族たちが争う状況を改め、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため
2. 武士の台頭を抑え、地方の政治を国司ではなく貴族に任せる仕組みを作るため
3. 海外との貿易を独占し、金や銀などの貴重な資源を幕府の財源とするため
4. 厳しい身分制度を廃止し、一般の民衆が自由に政治に参加できる環境を作るため

答え合わせ・解説

問1	答え 2 十七条の憲法	聖徳太子は、天皇中心の国づくりを進めるため、役人（豪族）たちが守るべき道徳的な規範として「十七条の憲法」を定めました。これは現在の憲法とは異なり、役人に対する訓示としての性格が強いものです。選択肢にある「冠位十二階」は、家柄ではなく才能や功績に応じて役人の位を与える制度であり、混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 1 高句麗	7世紀、朝鮮半島の北部を支配していた高句麗は、中国を統一した隋やそれに続く唐と激しく対立し、度重なる攻撃を受けました。この強力な唐の動きは朝鮮半島全体や日本にも大きな危機感を与え、日本の国内政治が中央集権化へ向かう国際的な背景となりました。新羅は後に唐と結んで、高句麗や百済を滅ぼすこととなります。
問3	答え 1 大宝律令	唐の律令を模範として701年に制定されたこの法令により、日本は本格的な律令国家として歩み始めました。刑法にあたる「律」と、行政法にあたる「令」が整備されたことで、天皇を中心とする中央集権的な統治体制が確立されました。
問4	答え 1 唐の優れた制度を取り入れることで、天皇を頂点とする官僚組織を整え、国家としての統治能力を高めるため。	律令国家の建設は、大陸の先進的な統治システムを導入することで、バラバラだった国内勢力をまとめ上げ、対外的な独立を保つ狙いがありました。二官八省の官僚機構や戸籍の作成、班田収授法の実施などは、すべて天皇に権力を集中させ、安定した徴税を行うための仕組みです。
問5	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子は、冠位十二階の制定とともに「十七条の憲法」を定め、天皇を中心とする中央集権国家の基盤を整えようとしていました。この法は現在の憲法とは異なり、役人が守るべき道徳的な訓戒としての性格が強く、特に第一条で説かれた「和」の精神は、豪族間の争いを鎮める意図がありました。
問6	答え 1 天皇を頂点とし、法に基づいた行政区画の整備を通じて中央集権的な統治を行うため	律令の整備は、それまでの豪族による土地・人民の支配を改め、天皇を中心とする国家が全国を直接支配すること（中央集権化）を目的としていました。多胡碑に記された「郡」の設置も、この法律に基づいて全国を組織的に管理しようとする政策の一環です。これにより、税の徴収や徴兵などが組織的に行えるようになりました。
問7	答え 1 公地公民	それまでの日本では、豪族がそれぞれ「部曲（かきべ）」や「田荘（たどころ）」と呼ばれる民や土地を私有していましたが、これを天皇が支配する公的なものへと改めました。これにより中央集権化が進み、税（租・庸・調）を効率的に集めるための戸籍作成や、口分田を割り当てる班田収授法の土台となりました。
問8	答え 1 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問9	答え 1 豪族たちが争う状況を改め、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため	当時の日本は有力な豪族が勢力を争っており、国家としてのまとまりが不十分でした。聖徳太子は仏教の教えや十七条の憲法を通じて役人の心得を説き、さらに冠位十二階によって才能ある人材を登用することで、天皇を中心とした組織的な政治制度を構築しようとしていました。これにより、日本の国家基盤を固める狙いがありました。